

委員長報告に対する討論

総務文教、厚生、産業、建設水道委員会の各常任委員長から、3月定例会に提案された各付託議案の審査結果の報告が行われ、委員長報告に対する討論が行われました。これは、各議員及び会派が、どのような内容の施策にどのような理由で賛成し、反対するのかを明らかにするものです。3月定例会では3人が討論を行いました。その要旨を紹介いたします。

景気・雇用対策で財政の立て直しを

新風会 松本義隆

津山市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例は本市の財政が厳しいから職員の給与を削減するというもので、合併特例が終わる27年度からさらに国から交付税の減額が予想され、そのたびに職員の給与を削減し財政を支えるのか。そんなことはできない。この状況を克服するには、最優先で景気、雇用対策を実施し、税収の増加を図り、津山市の活性化を促進させ、本市の財政を支えるべきものと考えます。他の議案については賛成する。

民は泣き、官僚・議員はお手盛りで

山田 誠

議員も宮地市長を見習い、市民目線で市民の窮状を直視し、市民代表として報酬の削減で予算編成に協力すべきである。議員報酬は全国類似団体の平均月額約42万円に対し、津山市は約46万円であり4万円程度高すぎる。また、連合町内会からも、議員定数や報酬の削減の要望書が提出されている。県内の民間賃金と国の動向に配慮しながら、ラスパイレース指数を参考にした職員給与を決定する時期にきている。

今日の財政難を作り出した責任を明確に

日本共産党津山市議団 末永弘之

苦田ダムを水源とする岡山県広域水道は、今でも水が売れないで22年度も15億円の赤字、アルネビルには毎年3億円を超える市負担が続いている。津山市土地開発公社の「負債整理」の原因を作った流通センターは造成地が売れないで100億円を超える負債、さらに、井口の卸センター跡地は「荒地のまま」放置。こうした過去の大型開発事業が、今日の財政危機を作ってきたのは明白。私たち日本共産党議員団は、単なる反対ではなく、対案を提案してきたが、議会が多数で「賛成」してきた。結果として、その時々指摘・提案はほぼ間違っていないということに肝に銘じ覚えておいてほしい。



3月定例会の日程

- 2月27日(月) 開会、議案上程
- 3月5日(月)～7日(水) 議案質疑、一般質問
- 3月8日(木) 議案質疑、一般質問
- 追加議案上程、議案質疑、委員会付託
- 3月12日(月)・13日(火) 各常任委員会
- 3月14日(水) 各特別委員会
- 3月21日(水) 常任委員会委員長報告・採決、追加議案上程・採決、閉会

他市からの視察

- 1月18日(水) 石川県かほく市 7人
- 津山市水道局による包括的民間委託について
- 1月25日(水) 栃木県真岡市 10人
- 鉄道近代化遺産を用いた観光振興策について
- 2月7日(火) 広島県尾道市 4人
- つやま新産業創出機構による産業振興策について
- 2月8日(水) 千葉県八千代市 3人
- 統合型GIS地理情報システムについて
- 2月10日(金) 愛媛県西条市 2人
- 津山市地域公共交通総合連携計画について

森林・林業関係者と産業委員会等との懇談会が開催されました

平成24年3月15日(木)に、森林組合、木材組合、建築士など関係者17名を招いて、「これからの津山市の森林・林業を考える」というテーマで懇談をしました。県産材の活用等について、様々な立場から意見を交換しました。